

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	富沢遺跡保存館
2	指定管理者	(公財) 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》40,698人(前年度比 83%) 平成28年度48,930人 平成27年度41,168人 平成26年度35,376人</p> <p>《事業》展示事業：常設展(地下展示室発掘調査面の展示、野外展示「氷河期の森」等) 特別企画展「いにしへの木 林 森」 企画展3回(テーマ「人間と環境」「地域の歴史」など) 調査・研究事業、普及啓発事業：体験教室、石器づくり、古代米づくり、講座、イベント等</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 100,447千円 (100,170千円) ()は前年度決算額</p> <p>・ その他市が負担した費用 1,249千円 (0千円)</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 8,137千円 (9,799千円)</p> <p>・ その他収入 153千円 (459千円)</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 平成29年度に実施した施設利用者アンケートについて回答を随時館内に掲示するとともに、近日発行予定である『地底の森ミュージアム・縄文の森広場 年報2018』に結果を掲載した。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、旧石器時代を中心とする遺跡の保存公開と復元林の維持活用等について職員に十分理解されている。また、展示事業や普及啓発事業、資料の積極的な収集・保管、調査・研究等を通して本市の歴史文化の保護・向上といった目的を十分達成している。	S
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館状況及び指定管理料の執行状況も適正である。また、個人情報の保護に対する体制や情報セキュリティ対策も適正である。事故防止のためのマニュアルを作成し、毎朝の職員打ち合わせで適宜事故防止策や対応について周知徹底しているほか、災害時の防災用品や食糧を一定数量備蓄している。	S
III 施設・設備の維持管理	建物や設備が適切に管理され安全性が確保されており、利用者が快適に利用できる状態が保持されているとともに、仙台市環境行動計画に則り省エネ・リサイクルに努めている。地下展示室の遺構保存については、専門家を加えた保存処理検討会の指導を受けながら、各種分析や補修等を行い、適切に管理している。野外展示である植生についても、植生検討会の指導を受けて樹木の生育調査を実施し、「氷河期の森」として2万年前の森の様子を復元し、樹木等の経年による更新や外来生物・害虫の駆除などを実施して良好な状態の維持に努めている。	S
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付状況は良好であり、ホームページやフェイスブック、紙媒体のパンフレット等のほか、コミュニティFMラジオによる情報の積極的な発信を行っている。利用者アンケートで寄せられた苦情への対応については、回答を館内に掲示し、職員全体で接遇改善に努めている。	S
V 施設固有の基準	協定書や仕様書等に基づき適切に施設を管理するとともに、事業計画書どおりに適切に事業を運営している。また、大学等の外部機関との連携による事業展開を行うとともに、学校・市民センター・地域住民と協力してイベントを行い、地域社会と良好な関係を維持している。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	取組み状況	
<p>1 学校教育・他機関との連携</p>	<p>分館の縄文の森広場と連携して推進している「利用学習事業」では、市内の小学校24校・1,739人の参加があり、昨年よりさらに利用が増えている。また、職場体験としては、市内中学校の社会体験活動の依頼により10校39人の中学生を受け入れている。博物館学芸員過程実務実習としては、県内外の大学に在籍する6大学11名の学生を対象に実施した。また、近隣学校の生徒による課題発表「仙台市立長町南小学校3年生 作品展」も実施している。</p> <p>他機関との連携として、東北大学と連携した企画展「陸奥国分寺展 一発掘黎明期の挑戦者」を開催したほか、SMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)クロスイベントとして、東北大学の学生を中心とするみちのく博物館と連携したイベント「きみも富沢博士！～”かせき”ってなあに？」を開催した。また、「手づくり工房」などのイベントでは、在仙大学の学生有志(サポーター)の協力を得て事業を実施し、市民参画を目的とした「親子でつくりよう古代米」「森を育てる2017」などのイベントも継続して実施した。</p> <p>5月2日～7日には、昨年に続き東アジア考古学研究所(韓国)からの依頼を受けて、韓国京畿道漣川郡で開催された「第25回漣川旧石器祭(教育博覧会・国際ワークショップ)」にて発表とイベントを実施した。この祭は、韓国の旧石器時代を代表する全谷里遺跡を会場にして行われており、世界各地から7研究機関が招聘されたものであり、施設の活動が評価されたものである。</p>	
<p>2 市民協働の推進</p>	<p>地下及び1階の常設展示の解説、利用学習時の展示解説や石器づくり体験、市民との交流を図るイベントなど、多様な場面において、72名のボランティアスタッフが積極的に活動を行った(平成29年度実績延べ1,196人、3,575時間)。</p> <p>近隣の町内会・小中学校・市民センター・商業施設・関連団体などを対象として実施した運営懇談会は、地域の方々の意見を聞き、連携を図るうえで意義ある事業であり、継続的に実施している。企画展「もりの風景2017」は、こうしたボランティア活動について自らの手で紹介していただく場であった。</p> <p>また、市民が学習しながら自主的に調査・研究を行う「市民文化財研究員」を募集し、育成することによって文化財への理解と保護活用の意識向上を図ったほか、施設の魅力を市民の目線から発掘する「ミュージアムフォトコンテスト2017」も定着しており、好評を得ている。</p>	
<p>3 広報活動等の推進</p>	<p>親しみやすいデザインを意識したホームページに加え、平成29年9月からフェイスブックを活用して様々な事業の情報をリアルタイムで発信し、施設の魅力を伝える取り組みを積極的に推進している。その際、閲覧状況等を解析することで、いっそう効果的な情報発信に努めている。これらに加えて各種の印刷物やコミュニティFMなどを組み合わせた複合的な情報発信により、広汎かつ細やかな広報活動に努めている。なお、各種イベントのチラシ等は近隣の小学校や市民センターでも配布し、広報の充実を図っている。</p>	
<p>加点評価</p>		<p>A</p>

四 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
<p>施設の管理運営に当たっては、施設所管課と協議しながら、協定書等に基づき適切に行った。開館から21年が経過し、施設の老朽化が目立ってきたため、遺跡の保存環境の整備に不可欠な空調機器や来館者が利用する共用部、展示に関わる映像機器の修繕を重点的にを行い、施設の安全性を高め、長寿命化を重視した管理を心掛けた。平成29年度の入館者数は、前年度に比較し17%減の40,698人であった。秋季から冬季にかけての入館者数が前年度比80%程度で推移しており、たくさんの方にご来場いただいた開館20周年記念のシンポジウム等の事業が無くなったことが一つの要因と考えられる。</p> <p>5月には昨年度に引き続き韓国の東アジア考古学研究所より全谷里遺跡を舞台に行われる旧石器祭への当館学芸員招聘、8月には東北文科大学・南山形地区創生プロジェクト「未来に伝える山形の宝」事業のシンポジウムでの発表、10～12月に東北大学大学院文学研究科・東北大学総合学術博物館と共催した企画展等、当館活動について外部から高い関心と評価を得ることができた。ミュージアム施設として適切な調査研究、普及啓発、資料の保管等に努めた他、より多くの方々にご利用いただけるよう多彩な広報活動を行いながら、年間を通して様々な事業を展開している。</p> <p>展示事業では、特別企画展1回（「いにしへの木林森」）、企画展3回（「仙台の遺跡 陸奥の「国府」郡山遺跡と周辺の遺跡」、「陸奥国分寺展—発掘黎明期の挑戦者—」、「もりの風景2017」・「ミュージアムフォトコンテスト—氷河期の森・縄文の森の風景2017—」作品展）を開催した。</p> <p>調査研究事業としては、平成28年度に開催した開館20周年記念シンポジウム2日目の記録を「調査研究報告2017」として刊行した。そのほか、地下展示室の遺構については保存処理・維持管理業務を継続しながら、調査研究を進めている。遺跡保存に関わる課題について専門家の指導をいただく保存処理検討会を2回開催し、樹木の含水率の分析調査等も実施した。野外の「氷河期の森」植生維持管理事業では、植生検討会2回を開催し、専門家の指導を受けながら、順次補植を行うなど維持管理に努めている。</p> <p>普及啓発事業としては、考古学講座、たのしい地底の森教室、地底の森フェスタ2017などで石器づくりや石蒸し料理・古代米試食等の体験コーナーを展開し、地域住民などに積極的に周知しながら実施した。学校連携は縄文の森広場と合同で実施している利用学習事業を中心に据え、修学旅行や遠足等の利用校に対しても展示案内等の対応を行った。生涯学習活動として、市民文化財研究員を募集し、遺跡や考古学に関する学習の支援を行い、その成果を活動報告書としてまとめた。ボランティア72名が、展示解説や各種体験教室やイベントの補助活動等を延べ3,575時間実施した。大学生有志によるサポーター活動は、秋休み手づくり工房・地底の森フェスタなどのイベント補助を中心として多くの協力を得た。</p> <p>ホームページ等のインターネットによる情報発信や各種印刷物（ミュージアム通信等）・コミュニティFMラジオ番組「エフエムたいはく」等の様々な媒体を駆使して館の広報に努めている。そのほかFacebookを開始し、SENDAI Free Wi-fiを1階の展望ラウンジ等に導入した。来館者アンケートでは、主な意見・要望等に対する回答を館内掲示し、接遇等の改善に役立てながら実施している。また近隣の商店街が実施している「長町まちかど教室」、商業施設ララガーデン長町のらら夏休み企画では仙台工業高校模型部と協働でワークショップ、町内会での講話等を開催し、地域に根差し、活性化に貢献する館外活動には積極的に取り組んでいる。</p> <p>事業団の自主事業は、5事業を実施した。「親子でつくろう古代米」事業は、参加者から高評価を得た。「森を育てる2017」事業は、当館の野外展示を活用して、身近な自然とそれを守る意欲を育てることをねらいとして実施した。「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2017」事業は、「氷河期の森」と「縄文の森」の風景を撮影した写真のコンテストで71名の方から応募があった。「冬キラ☆今日の主役は氷河期の森」事業は、「氷河期の森」の楽しみ方とその魅力を発見するための「ワークショップ」「ライトアップ」「カフェコーナー」を実施した。「狩人登場！」事業は、演劇を活用して展示物の理解を深める試みで、「劇団 短距離男道ミサイル」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外に出没して来館者と触れ合い、大変好評を得ている。</p> <p>SMMMAのクロスイベントとして、東北大学総合学術博物館・みちのく博物楽団と協力して、当館の保管資料と標本資料の解説と実際に触れる体験などの「きみも富沢博士！～“かせき”ってなあに？」を2日間にわたって実施した。</p> <p>今後はより一層、分館である縄文の森広場やボランティアと連携・協力を強めて館運営に努め、地域に根差した事業を推進していきたい。また、SMMMAなど博物館施設との連携、在仙大学を中心とした研究機関との連携、事業団内の各部署との連携・役割分担を図りながら、先史遺跡の公開・活用施設として新たな試みを行い、事業展開を図っていく。そして、富沢遺跡の価値を発信し、地域の歴史や文化財に親しむことのできるミュージアムを目指し、仙台市の文化行政の一端を担っていきたい。</p>	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の運営管理に当たり、指定管理者は協定書等に基づき適切に運営を行っている。また子館である縄文の森広場と連携して事業を推進するとともに、施設設置者である仙台市担当課と指定管理者および施設の担当者が、市の事業推進や指定管理業務の課題解消について適宜調整を行い、協力して業務遂行にあたっている。</p> <p>入館者数は昨年度に比べれば減少しているものの、平成27年度以降伸びてきた高い水準を維持している。昨年度の利用実績を考慮すれば、地下鉄駅に程近い立地をいかし、例えば地下鉄を利用する学生向けに訴求を図るなどの新たな取り組みを行う余地のあることは認められる。そうした中で、これまで培ってきた劇団や大学等と連携した魅力ある事業展開をはじめ、フェイスブックを活用した広報の拡充といった様々な取り組みが発展的に実施されていくことを期待したい。そのためにも、開館21年を経過し次第に老朽化が顕在化してきた施設の日常的な維持管理業務が負担となることのないよう、施設設置者と連携して対策を講じ、緊密な連絡体制を維持していくことが重要である。</p> <p>来館者アンケートでは、施設の清潔さや、展示・イベント・職員対応等について恒常的に高い評価を得ている。また、職場体験や博物館実習の受け入れ、市民文化財研究員の活動の場の提供など、観覧者にとどまらず多くの市民とつながりを持ち充実させている点や、学芸員が韓国の漣川旧石器祭に招聘され石器製作技術の披露を行うなど海外からも活動が評価されていることが特筆される。高い専門性をいかしながら、わかりやすく楽しい展示が工夫され、良好な環境のもとで地域に還元されていく、という循環が好ましい形で実現していると言える。</p> <p>なお、世界的にも稀有な2万年前の旧石器時代の遺跡面を発掘された状態で保存・公開していることは、一方でその維持管理の困難さを意味するが、この面においても長年にわたり実施してきた科学的検討を経た試行の積み重ねが、一定の成果を上げつつあり、意義ある活動となっている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課